

正得公民館 意見交換会要旨録（災害対策）

日 時：令和元年 11 月 26 日（火）19:00～20:00

場 所：正得公民館 和室

出席議員：福島議員、砂田議員

砂田議員

先ほど紹介したハザードマップは、小矢部市の場合は千年に一度の水害に対応するというようにしている。皆さんの家庭に届いており、これを見て対策を考えていく必要があると思う。これを見て皆さんの率直なご意見をお聞かせいただきたい。

参加者

対策にはお金がかかって、なかなか思ったようにならないだろう。

砂田議員

七社で砂利を掘ったら数メートル下から墓石が出てきた。教育委員会で調べたら、これは上流から流れてきたものでなく、洪水で埋まったものであることがわかった。数メートル下から何百年前の人に住んでいた地域のようなのである。庄川の堤防が加賀藩の努力によって強化されたので大丈夫でないかと思っているが、最近の豪雨では堤防が決壊するとんでもないことになるということなので、しっかりと考えていかなければならないと思う。

参加者

川底を下げればいいのではないか。川を三段階にする。用水の川を両側に作って、真ん中は排水の川にする。Vの字にすればいい。

福島議員

ご意見のあった河川の問題は、長年の月日で川底に土砂が堆積している。必要な河川については、浚渫ということで機械を入れて土砂を上げて川底を下げる。そうすることによって少しでも多くの水を下流に流下させる。そういう浚渫というものがあるが、しかし、県土木はまだそこまで行っていなくて、一体的な保全管理にウェイトを置いている。集中豪雨が発生して被害が出ればすぐにやってもらえると思うが、未だ、小矢部市内の一級河川においても、完全に保全をしていないところもあり、なかなか浚渫は難しいと聞いているところである。話をしたが、ちょうどこの地域、大谷校下は庄川左岸地区になる。庄川左岸が小矢部川まで流下している。従って、荒川地区の被害が一番大きいだろうということで、荒川は赤く色が塗られている。

参加者

来るときに小矢部のホームページから、ハザードマップに関連するページを見てきた。ハザードマップを見直したということで、千年に一度

という長いスケールで過去の災害を見てそれに基づいた水量で想定して作成したということだった。こういうマップを作った条件としてどうやって想定したのかわからないが、近年、台風で堤防が決壊するという現象が起きているが、去年も愛媛でダムの放水があり、発生した災害があった。マップはどんな条件で作成されているのか。堤防の決壊まで想定しているのか。

福島議員

決壊までの想定というよりも、堤防から溢水という想定だと思う。

参加者

そうすると、堤防を越えて初めてこういう被害が出るということか。

福島議員

あるいは、小矢部川の支線から本線に入ると小矢部川の水位が上がる。そうするとどうしても支線の水位が上がるというようなことも加味していると思う。

参加者

堤防が決壊していないのかわからないが、堤防を越えた水が、堤防の外側の土砂をえぐって、結果として堤防が決壊するということになるが、そういう想定がないのか。その心配がないのか。

福島議員

千年に一度である。

参加者

小矢部川だけの想定なのか、庄川の決壊も含めての想定なのか。

福島議員

庄川水系は含めていない。庄川が氾濫してくるとこの程度の被害ではないと思う。

参加者

そうすると、庄川の上流にたくさんダムがあるが、ダムが次々放流すると大変な量の水が下流に流れる。

福島議員

私が聞いているのは、最近のダムは土砂吐きを徹底させている。浚渫をやればいいが、それは多大なお金がかかるので、それがボトルネックになっていると聞いている。

参加者

治水管理としてのダムの役割を果たすための実態、取組がなされているかご存じであれば教えてほしい。

福島議員

それは国の管轄であるのでわからないが、浚渫状況は毎年調査している。

参加者

結果はどうか。

福島議員

結果は大丈夫なので嵩上げ等はやっていないのだと思う。ただ、千年に一度の対応という話になると、全部なくさないといけないと思う。今の流下能力では足りないと思う。千年に一度は国の指示であり、最大想定をしているマップであり、現実としてあるのかは疑問であるが。

砂田議員

千年に一度というのは、雨の降る量が千年に一度の規模で想定しているということである。昨今の水害は堤防の決壊が圧倒的に多い。堤防は、部分的に水が溢れ出してくる。堤防の高さよりも数十センチ水が高くなり溢れてくると、その堤防の泥を押し流してその部分が壊れる。そこが壊れると川に流れている大量の水が流れ出すので、何メートルも浸水する被害が出る。決壊しないように、その裏側をどう保護するか、堤防に落ちた水が泥をえぐらない対策を国土交通省の方でも対策を検討されている。そういう対策が間に合っていないために今回の様な被害が出ており、この対策の重要性を感じている。

参加者

堤防が決壊するということは、川底が上がっているからである。堤防をどんどん上に上げていけばいい。

福島議員

今年の大雨でも、小矢部川の福町周辺は警戒水位までいっていた。過去にも警戒水位が上がったということで、国が堤防の嵩上げをしている。そういったことで、その都度の対応ということしかできない。全線にわたってやれば大丈夫だと思うが、千年に一度に対応するほどの事業をしようとすれば国が滅亡するほどの莫大なお金がかかる。必要に応じて状況を見ながらやってもらっているという状況である。

砂田議員

水害の問題については、千年に一度に備えて何もかもやろうというのは現実的には難しい。これまで小矢部で、例えば泉町で水が漬いて床下浸水が起きた際には、今石動町のポンプ場で排水を小矢部川に流すという対策を取っており、その後は泉町の方での床下浸水がなくなった。小神で小矢部川の水位が上がって、宮川に逆流して、田んぼに材木が流れてきたことがあったが、これを踏まえて、合流点の改修をして、とりあえず、安心して暮らせる対策を取っている。荒川の方では、黒石川が溢れる問題が、去年、今年とあったが、この問題に関しては、岡の方で黒石川の河川を広げるという対策を取った。

福島議員

本来であれば小矢部川から順番に改修すべきところだが、一部の賛同が得られず、小矢部市の地域内から上流に向かって施工した。下流は現

状のまま、上流は大きな断面になっていて、ある程度の雨量は受け入れ可能ということになっていた。そこにどっと水が流れたもので、狭くなっているところで水が溢れた。ちょうど湾曲のところで、溢水があり、畑に若干の被害が出た。改修していけばそういうことはなくなるが、千年に一度の大雨には対応できないかもしれない。

参加者

自分が荒川にいたときに、完成するのは30年後ぐらいという説明だったが、黒石川を40メートルぐらいの幅に広げて、地崎の農免道路の少し上まで広げるということだった。この件について結果を確認すると、ため池、東中にいくつか作ったので、広げなくてもいいようになったのではないかということだったが。

福島議員

それとは別である。調整池はあくまで、砺波が乱開発したために我々小矢部が被害を被っている。都市計画をしっかりと流すルートを確保すれば、あの様に至るところに作らなくても済んだ。

参加者

あの話はなくなってしまったのか。

福島議員

私は、国道8号までだと聞いている。おそらく、黒石川の事業は長くなって、まだ10年以上はかかるのではないかと思う。

砂田議員

黒石川の件について、福岡の方でも被害が出たので、理解が広がり、やはり直さなくてはいけないということになったので、これからは下の方にシフトするようになると思う。

参加者

庄川は、小矢部川に流せばいいが、小矢部川は流すところがないので、どうしても埋まる。

砂田議員

今ほど言われたような問題は、岸渡川にもついても関係する。岸渡川は北陸線までしか広げない。どうするかというと、上流でため池を作って、大雨が来た時にはそこに貯水して流すという対策を取っている。福島議長が言われたように、砺波地方でどんどん田んぼを潰して住宅地や商業地を開発しているので、その分の水がどんどん岸渡川や黒石川に流れるという形で影響が出ている。それに対して全て川幅を広げて対策しようとするものすごいお金がかかるので、ため池でしのぐような対策を考えている。

参加者

千年に一度を想定したハザードマップということで、その雨量がどれくらいのものなのか私はわからないが、近年では、線上降水帯などで大

量の雨が降っているが、これらの雨量ぐらだと安心して見過ごせるような量であるのか。

福島議員・砂田議員

それはわからない。

参加者

ハザードマップの想定雨量は何ミリになっているのか。

参加者

小矢部川で12時間総雨量417ミリ、旅川で504ミリ、庄川は48時間で655ミリとなっている。

参加者

庄川で災害があった。西中や狐島、津沢などに流れてきている。ハザードマップが改正される前は黄色だったが、今は赤くなっている。そういう実績が千年前にあった。そういう記録があるのでこういう地図が作られた。

参加者

だとすれば、相当な量だと思うが、昔は、庄川は福野の方で小矢部川に合流している時代もあった。

参加者

千保川が排水路のようになっていた。

参加者

出町の方に庄川が流れ込んでいたという時代もあった。

参加者

庄川の川底は小矢部川より高いので庄川の方にはほとんど行かない。ほとんど小矢部川に流れてくる。

それから水が逆流すると横江宮川から崩れてくるのではないか。

参加者

若林、正得はそれほど浸水深が深くない想定だが、これが保証できるのかどうかは庄川次第だと思う。

参加者

金屋本江や水牧も横江宮川の方の水が溢れて浸水するかもしれない。倉敷の時も本線の支流が洪水になった。逆流に対する備えがどれだけになっているのかわからない。

参加者

最近の被害を見ていると、ダムの治水対策を誰がどのようにしているのか。下の方で被害が出るのがわかっていて水を流す。

参加者

雨が降る前にある程度流すのだが、流しすぎると水が無くなるので、水道局や工場と協議があるらしい。そういう理由で空にはできないそうである。

参加者

ダムは雨が降る前に適量流してしまわないといけない。

参加者

このあたりは庄川系統では関西電力、小矢部川系統では富山県が管理している。そういう役割分担になっている。

逆流による被害がどれくらい出るのか、どれくらい盛り込んであるのか、皆さんも知っておかなければならない。庄川が氾濫すれば間違いなくこのあたりも水が漬くのが確実だと思う。ダムのことをどうこう言うよりも、迅速な避難につなげるために、被害状況を早く確認できるような情報を市の方で管理してもらいたい。

福島議員

市からの情報ということで、Jアラートをご存じだと思うが、放送されているが、何を言っているのか聞き取りづらいという意見が出ています。距離の問題もあってそのように聞き取りづらくなり、市の方も改善していると言っているが、市民の方から聞くとどうも何を言っているのかわからない。情報を伝えるラジオなどがあった方がいい。今時の防災ラジオは緊急時に自動でスイッチが入る仕組みになっている。東日本大震災の際に、もっと防災ラジオが普及していれば、高齢者の被害は少なかっただろうと言われている。

参加者

防災無線が聞こえないところについては、市役所で答えるということになっている。私たちが一番大切なのは、放送があれば避難するということである。長年の経験で避難しない人がいて、手遅れになってから避難しようとして、犠牲になっている。「避難してください」と言われたら避難しなければいけない。小矢部市では台風19号の時にレベル3の避難情報を出したが、10数人ほどしかいなかった。自分の感覚でなかなか避難しないのが現状である。

砂田議員

ハザードマップは、洪水対策をするための地図ではなく、今ほど言われたように、避難するための心がけをするための地図である。地図を見て浸水想定をしながら、どう避難するかという逃げ方を考えるひとつの材料である。先ほど、洪水対策で、被害が起きないようにするためにはどうするかということは、ダムの活用の問題と、堤防の補強の問題がある。堤防も何十年も経つと重さでどんどん下がっていくということであるが、全部やり直すのは不可能である。危ない箇所から少しずつ手当てするのが現実的である。ダムの事前放流については、事前の天気予報を基に、事前に言えるような仕組みをどう作るかというのは、これからの国全体の課題だと思う。

参加者 実際に避難をする際の情報は、私たちにどのような形で入ってくるのか。

砂田議員 避難準備の情報が出て、それに基づいて動いていただくということになる。

参加者 自分がテレビのニュースを見ながら判断するのか。

砂田議員 市長から、防災無線やテレビ、ラジオ等を通じて情報が伝達されることになる。

参加者 それがはっきりしないので、実際にこういうルートで発信しているという情報を知りたい。

参加者 各地区に防災連絡会というものがある。会長に連絡が行って、各町内会長や班ごとに情報が伝わる。システムは各地区で作らなくてはならない。それから、防災無線が流される。

参加者 防災無線は雨が降っている場合は聞こえない。

参加者 国では自分の身は自分で守れと言っている。先ほど言ったように、避難勧告をどれだけしても、避難しない人はいる。自分の感覚で避難しない。避難情報を見て、周辺の環境の変化を見て、他人の行動を見て、自分が避難しなければいけないのではないかという思いが芽生えるということである。小矢部市の防災会ではそのように言っている。

参加者 天気が悪いときには防災無線は絶対聞こえないので、いくつ作っても意味がない。自分の命は自分で守らないといけない。

砂田議員 情報をどう伝えるかということは、防災無線だけでなく、携帯電話や、テレビ、ラジオを活用することは非常に大事だと思う。

参加者 災害の情報をどれでもいいので収集して欲しい。

参加者 砺波の情報が入ってくる。

参加者 小矢部市外にいる場合は小矢部の情報は入ってこない。

参加者 ハザードマップをよく見て欲しい。自分のところがどうなっているの

	か確認して欲しい。
福島議員	ハザードマップを見て、自分の家の位置を確認して、家族で情報を共有して欲しい。
参加者	避難行動要支援者1人について、2人の支援者を作らないといけない。支援者を助けながら避難させるということになっている。
福島議員	ひとり暮らしが多くなっている。避難態勢をどう確保するかが課題になる。全国の例を見ていると、地域の消防団の活躍が大きくなっている。知らない人から避難を促されても避難しないが、知った人から避難を促されると避難する人が多いそうである。地域の体制は重要だと思う。
参加者	避難行動要支援者の人達に対し、支援者の人達は、自分の安全、家族の安全を確かめてから助けに行くことになっている。助けてもらう方も、まずは自分の身は自分で守らないといけない。
参加者	登録してある人は良いが、登録していない人が6割ぐらいいる。自治会にはその人の情報がない。
参加者	災害が発生してから情報が来ても助けに行けない。
参加者	民生委員の方が見回りされたときに、1人で避難できないような方がいたら社会福祉協議会に連絡してもらえば登録され、私たちも知ることができる。
福島議員	そのあたりは個人情報のこともあるので、どの程度かというのは難しい。
参加者	個人情報の問題があるので、民生委員しかわからない。情報を出せない。
参加者	隣近所がわかっている方がいいのではないかな。
福島議員	中山間地域を中心にして、郵便局と協定を結んで、ポストに入れたものを取ってくれるかどうかで大体わかる。小矢部市もそのようなやり方をしている。

砂田議員

先ほど、地震の問題についてもスライドで紹介していた。これは全く予想がつかない問題だが、それに対する対応としては、家具の下敷きにならない、家の耐震補強など、どこまでできるのかは大変だが、考えていかなければならない。特に寝ている間に家具の下敷きにならないようにすることは考える必要がある。邑知潟断層でたくさんの負傷者が出るということは、家具などの下敷きになることが想定されており、できる限りの対策をしていかなければならないと思う。

参加者

地震の場合は、直接的に家の倒壊、土砂崩れの他に、二次的に火災などの災害が発生するおそれがある。特に町部や住宅地はそのようなことを考えないといけない。

砂田議員

停電してから復旧したときに火が出る問題がある。

福島議員

コンセントで掃除していないところは危ない。

参加者

ブレーカーを落とせばいい。それから避難すればいい。

参加者

それよりも洪水である。雨の状況を見て、自分たちで判断して、避難しなければいけないかどうか、そういう気持ちになれるかどうかである。

参加者

避難するときは歩いて行けということだったか。

参加者

歩かなくてはならない。自転車でもいい。

参加者

雨が降っているときに歩いて行けるか。

参加者

自動車でも50センチの水があれば浮いてしまうのでだめである。

参加者

地図を見ていると避難するところはない。学校でさえピンクである。

砂田議員

2階にいた方が良い場合もあると思う。

参加者

避難所の運営は何日間ぐらい維持できる準備品があるのか。

福島議員

小矢部市にも非常時のストックは絶えずしているが、千年に一度規模の想定でのストックはしていない。邑知潟相当数のストックはしていない。半分ぐらいだと聞いている。なぜかという、更新しなければいけ

ないので、とてつもないお金になる。年に1回の防災訓練の際に皆さんにお配りして、絶えず回転させている。

参加者

そうすると、災害時には、県、国へ要請するということか。

福島議員

それもあるが、防災協定を結んでいる企業や市町村もある。それ以外にも、県と連絡を密にして、ある程度の物資の供給は可能かと思う。

砂田議員

避難訓練のときにその辺の問題もざっくばらんに話をしてどういう対応をしていくか日頃から考えていくことが大事だと思う。

福島議員

今年は北蟹谷で防災訓練を行った。470名参加された。近年だんだんと参加者が多くなっている。

砂田議員

正得も毎年やっている。

参加者

200人、300人が集まると公民館ではいっぱいになるので、その場合はどこにいけばいいのか。

参加者

やはり大谷中学校か、小学校だろう。

砂田議員

このあたりで、日頃考えたことを、今後の避難に活かしていくということにしたいと思う。

全体挨拶

砂田議員

人口対策の方はどのような議論だったかわからないが、災害対策は非常に真剣で活発な議論が行われた。ここで議論されたことが、防災訓練や、日常生活の中で大いに話し合っ活かしていきたいと思う。人口増対策はまた、長期的な考えで大いにがんばっていくということで、今日は貴重なご意見をいただき、一方的に話をするだけでなく、皆さんと話をする機会を作ったということは、なかなか、福島議長はよく考えられたと思う。このような機会を今後も議会として作っていききたいと思う。今日はどうもありがとうございました。